

令和6年度論文賞 国内誌最優秀論文賞・国際誌最優秀論文賞受賞に寄せて

国内誌最優秀論文賞を受賞して

袋井市立聖隷袋井市民病院 望月 亮

このたびは国内誌最優秀論文賞に選出していただき誠にありがとうございます。

リハビリテーション医学にはたくさんの評価尺度があり、どの尺度を選択するかによって「見える世界」が異なります。尺度が異なれば変化が「あり」とも「なし」とも評価される場合があります。患者特性やリハビリテーション診断の目的に合わせて、最適な尺度を選択することが必要です。

また、高い信頼性や妥当性を担保するために評価手順が煩雑となり「信用できるけど使いづらい」という尺度もしばしば見受けられます。尺度が臨床現場で活用されるためには、使いやすいデザインである必要があります。



第62回学術集会で
行われた授賞式での望月
先生と安保理事長

令和6年度論文賞
国内誌最優秀論文賞

回復期リハビリテーション病棟での歩行レベル評価尺度 Walking LEVEL Scale (WaLS) の開発と信頼性・妥当性の検討
受賞者

望月 亮、豊田貴信、神谷康貴、
鈴木美穂子、吉本好延

尺度に関する課題は、リハビリテーション医学の難しさでもあり、おもしろさでもあります。合目的で科学的な裏づけがあることはもちろん、ユーザーフレンドリーな尺度を作りたい。そんな思いで Walking LEVEL Scale (WaLS:「ウォルス」と呼びます)を開発しました。このWaLSが診療現場の方々に、これまでとは“少し異なる世界”を提供するきっかけとなれば嬉しいです。

共著者の方々、袋井市立聖隷袋井市民病院リハビリテーション室のスタッフにはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。皆さんの協力があったからこそ、この論文が完成しました。今後も好奇心、探究心をもってリハビリテーション医学を楽しみたいと思います。

国際誌最優秀論文賞を受賞して

福井医療大学 中島裕也

大変名誉な国際誌最優秀論文賞にご選出いただき、心より感謝申し上げます。また、研究データの取得に快く応じてくださった被験者の皆様、ご指導・ご助力いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

私は、作業療法士として高次脳機能障害者の社会復帰支援を行う中で、“視覚認知障害”と診断される方々をしばしば経験してきました。しかし、そのような方々が、詳細な分析がなされないまま視覚認知障害と一括りにされていることに疑問を抱き、本研究の視線解析装置を用いた分析に至りました。対象である低酸素脳症は、視覚認知障害を呈するとされていますが症例数は少なく、その全容は明らかではありません。私も対象者を支援するうえ



第62回学術集会で
行われた授賞式での中島
先生と安保理事長

令和6年度論文賞
国際誌最優秀論文賞

Characteristics of Visual Cognition in Patients with Anoxic Encephalopathy : An Eye-tracking Study
受賞者

Yuya Nakajima, Nobuhiro Takahashi, Kaori Kawabata, Kazuki Fujita, Kakuichi Shiomi, Mamiko Sato, Naoto Omata, Yasutaka Kobayashi

で、その障害像の理解に難渋しました。この臨床で得た疑問に対して、本研究では低酸素脳症患者の視覚認知特性を可視化し、障害像理解の一助になり得たことをとても嬉しく思います。本研究結果をもとに、低酸素脳症患者の障害像を把握したうえで、有効な社会復帰支援へとつながっていくことが望まれます。今後さらに視線解析研究を進展させ、低酸素脳症を含む脳損傷後の高次脳機能障害患者の障害像の理解と、これらの知見にもとづく社会復帰支援の発展に尽力してまいります。このたびはありがとうございました。